

消

こんにちは！  
費生活相談室です 73

消費生活相談室 (☎47-1106 FAX44-7957)

◆相談事例  
自宅に訪ねてきた販売員に「無料でいいものをあげるから集まってくれ」と誘われ、近くの空き家に出かけた。会場にはすでに近所の人が集まっており、販売員が「近くスーパーを開店する予定で、その宣伝に来た」と言っただけで日用品を無料で配りだした。そして最後

◆催眠商法 (SF商法) とは  
販売員が自宅を訪問するなどして、主婦や高齢者を会場に集め、無料で日用品などを配り気分を高揚させ、冷静な判断ができない状態で高額な商品を購入させてしまう商法です。主な商品は羽毛布団、温熱治療器、浴槽に入れる石などです。

催眠商法 (SF商法) に  
ご注意ください

み

みんなで拓く人権文化 59

地域振興課人権政策室 (☎47-1102)

やさしい心の芽生え

連休に二人の孫とその両親が帰ってきました。3歳の男の子と、1歳半の妹です。この二人が庭先で砂遊びをしていました。  
言葉数が増えた妹が「兄ちゃん」と言いながら、兄にプラスチックのコップ一杯の砂を運んで行きました。兄は無言のままコップを手で払ってしまいます。砂はコップから飛び散ってしまうのですが、妹は懲りずに同じことを繰り返します。兄は砂を水で硬め、山を作っていたものですから乾いた砂は不要だったので、とうとう3回目に妹を手で押し倒してしまいました。そのあと、少し気にしながら山を作っていた兄は、しばらくして、転んで砂まみれになった妹を引き起こし、頭の砂を払い、脱げていた靴を履かせました。

1歳半といえはまだ親のスキンシップを必要とします。眠くなり、妹は母親に抱っこされました。それを横目でチラリチラリ。妹が寝てしまうと、さっそく兄も母親の膝へちょこんと座り、少し照れた笑顔。『僕だつてまだスキンシップが欲しいよ...』  
妹がおもちゃ遊びをしていました。『兄のいない間に思い切り遊べる』と思っているところへ兄がやって来ました。妹の持っているおもちゃを次々と取り上げてしまいます。いつも同じ目にあつて鍛えられている妹は泣きません。チラッと近くにいた母親の顔を見た兄は、おもちゃ箱の中から何個かのおもちゃを妹に与えました。『妹は兄の持っているものが欲しいのですが、我慢できました』  
兄の妹を思いやる心は芽生えつつありますが『自分がお兄ちゃんなんだ』と自覚できるまで、まだまだ大人の手助けが必要です。(人権教育推進員 安倍昌彦)

◆アドバイス  
しつこく誘われても、商品に関心がなければはじめにきっぱり断りましょう。無料の商品につられて会場に行く、高額な商品を購入するまで帰らせてもらえなくなる可能性もあります。  
※契約書面が交付された日を含めて8日以内ならクーリング・オフができます。たとえ8日が経過していても、不当な勧誘行為があった場合は取消しができる場合もありますので、できるだけ早くご相談ください。

◆相談受付時間 毎週月～金曜日  
午前9時～正午・午後1時～4時

今月のサロンコンサート

「初夏の夕べに  
～和楽器アンサンブルの響き～」

月とき・ところ 6月27日(金)午後7時30分～8時40分  
文化ホール(入場無料)

月出演 よなご邦楽合奏団 戀

社中の粋を取り払い、世代を超え、ジャンルを問わず楽しく演奏することをモットーに活動している邦楽グループ。おなじみの曲も和楽器が奏でるといつもと違う曲に感じられます。少し早い“日本の夏”をお楽しみください。

(問合せ先 生涯学習課文化体育係 ☎47-1093)



お忘れなく！  
市県民税第1期分の  
納期限は  
6月30日(月)です。

※便利な口座振替をご利用ください。

図書館に行こう！

(市民図書館 ☎47-1099)

『これが正しい  
温暖化対策』  
杉山大志



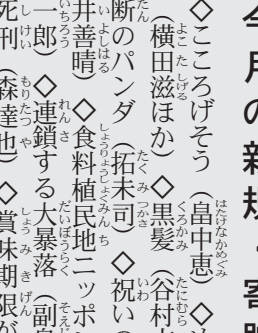
『さらわれた千里眼』  
アンソニー・リード



『なきむしおにごっこ』  
おのりえん:作  
降矢奈々:絵



『医者からもらった  
薬がわかる本』  
木村繁・医薬制度研究会



『日本海と竹島』  
大西俊輝



『これが正しい  
温暖化対策』  
杉山大志



今月の新規・寄贈図書

- ◆こころげそう (畠中恵) ◆めぐみ手帳 (横田滋ほか) ◆黒髪 (谷村志穂) ◆禁断のパンダ (拓末司) ◆祝いの料理 (土井善晴) ◆食料植民地ニッポン (青沼陽一郎) ◆連鎖する大暴落 (副島隆彦) ◆死刑 (森達也) ◆賞味期限がわかる本 (徳江千代子) ◆車椅子父さんの絵日記 (飯田史彦) ◆図説ことばあそび 遊辞苑ほか計302冊

さがいみなと  
文化財巡り

浜かすり ②

浜紉の原料である伯州綿が弓ヶ浜に栽培され始めたのは約三百二十年前に遡ります。  
「境村小空の新兵衛なる人、綿実を備中玉島にて求め来り、此地方に栽培して地味の適し以て今日に至り」と、時代は延宝の昔し辰の年(延宝四年＝一六七六年)にてありしと云う...  
小空新兵衛当地郷内綿栽培の祖なり云々」と『境港沿革史』(小泉憲貞著)は記しています。  
移入された綿実、砂地で排水が良く、開花時は夏の日差しが厳しい弓ヶ浜の環境に適し、宝暦九年(一七五九)、米川の通水もあつて作付けは飛躍的に増大して行きます。その後、綿作は伯州綿のブランド化となり、江戸時代後期には鳥取藩にとつて鉄とともに藩の財政を賄う主要産物になります。  
鳥取藩史に「藩民のうける利益は大きい。その産地はほとんど伯耆で、会見郡米子浜の目が最も盛んである」と記しているほどです。(福井貞子著『木綿口伝』より)



綿帳 (紉のカタログ)

と、県内綿花生産高の九割近くが弓ヶ浜一帯の生産と最盛期を誇っていた綿作も、明治二十年代に入り本格的な工場生産による紡績業が興ると、外国産の安価な綿花におされ、それに加え養蚕業の発達により決定的な打撃を受け、衰退の道を歩むことになりました。  
綿種はインドからの伝来と言われているが確証はなく、朝鮮渡来説や中国説も一定しているが、日本の地綿の性質上から南中国系によく似ているとされています。  
日本古来の織物は、野生植物の繊維を原料としていて、特に麻は、明の時代に中国から綿布が輸入されるまで主力でした。ほかに藤や楮、葛、科の木の繊維などもありました。この野生植物の採集は男の役目で、織り方は女の役目であつたようです。伯州綿の浜紉を支え受け継いだのも、農家の婦人たちでした。換金作物の無い貧しい時代の夜なべ仕事で、やがてこの地に民芸品を生むことになるのです。(市史編さん室 小灘浩)